

## 人材流出

2023. 10. 21

「先生、頼むから勉強させないでくれ」保護者から、こう言われた先生がいる。保護者が、自分の子どもに、あんまり勉強させないようにと、先生にお願いしているのである。こんなことがあるのかと思う方も多いただろう。だが、実際にある。

現在、どの都道府県、政令指定都市でも、学力向上に取り組んでいる。日本全国が、学力向上に躍起になっている。全国学力・学習状況調査の結果が、各自治体、各学校に発破をかけている。自然と、競争状態となる。OECDのPISA（学習到達度調査）の結果も大きかった。

学力向上のためには、授業を改善しなければならない。それは、児童生徒のためになる。したがって、学力向上を目指すことはわるいことではない。子どもは、勉強ができるようになりたいのである。わかりたい、できるようになりたいという気持ちは、教員の想定をはるかに超えている。勉強ができないのは嫌なのである。

では、先生に勉強させないでくれとは、どういうことだろうか。これは、地方の主に過疎地域の話である。勉強ができると、地元を離れてしまう。一度、離れたら、戻ってはこない、後継者問題も深刻となる。若者がいなくなる。その地域の存続の問題となる。

これは、福島県にもあてはまる。本県も、他県同様に学力向上に取り組んでいる。しかし、学力が上がれば上がるほど、人材は流出していく。せっかく、手塩にかけて育てた若者が、都会などに行ってしまう、戻ってはこない。大学進学率が上がれば上がるほど、若者は都会に行ってしまう。当たり前である。首都圏には、たくさんの大学がある。

大学等で都会に行った若者の中には、地元福島県に戻ろうとする者もいる。だが、その受け皿が、少ない。医師、教師、公務員、銀行員、一般企業などがあるが、かなり絞られる。我が家の長男も都会に行ってしまった。彼の高校の同級生や先輩、後輩なども、その多くは都会にいる。東京で、週末にでも集まろうと思えば、全員集合の状態となる。逆に、福島で集まろうとする方がむしろ少しくらいである。

もちろん、地元、福島県を支えている若者はたくさんいる。最初から地元に残ってがんばると決めている人も多い。だが、一般的な傾向として、勉強ができればできるほど、地元には残らない。人材流出である。見方によっては、都会のために、学力向上に取り組んでいるようにも見える。

福島からも、世界に羽ばたくような、日本をリードするような人材を育てたいと思う。同時に、福島県のために力を尽くす人材も育てたい。福島の復興のために、福島に戻ってきてがんばっている若者も多い。

学力を向上させるために、授業を改善する。子どもにとって、わかる、できる授業となる。そうなれば、不登校やいじめの問題も減るはずである。そう思って、やっている。しかし、いつも頭の片隅には、福島県からの人材流出のことがあるのも事実である。